

### 【今日の説教から】

今日の聖書の箇所は前半と後半とに分かれています。まず前半には、結論的なこと、「私たちが罪を犯さないようになること」というゴールが掲げられますが、その出発点として、私たちは「罪を犯す者」であることが述べられます。

その前提の上で「父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」、そして「彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである」ということが語られます。

その贖いと赦しを得たうえで、後半部分に入ります。

3節と4節は同じことが繰り返し語られます。すなわち、主の戒めを守るならば主を知っているということです。

そして5節、主の御言葉を守るということは、「神の愛が真に全うされる」とあります。主を知り、主のおきてを行うのならば、「神の愛が真に全うされ」、それと同時に、私たちが主と共にあることを知るのです。

「知る」ということと、「ある」ということ、赦されて戒めを守るように変えて頂くことと、そうして神の愛が全うされること、そして神にある者は、主イエス様が歩かれたように自らも歩く、これが罪を犯さないようになる道であると今日の聖句は語ります。

皆様おはようございます。先週は大変寒い日々でした。

しかし今週は最高気温が二けたの暖かい日々となりそうです。

しかし、コロナやインフルエンザの患者数が増えてきているようですから、皆様お気を付けください。

1 ヨハネの手紙を読み進めておりまして、今日は2章に入りました。

1章では、御父と共におられた御子イエス様による贖いにより、私たちは御父と御子との交わりに入れて頂いていること、その光のお交わりに入れられるということは、私たちも光の中を歩まねばならないこと、しかし私たちのうちには罪があり、光の中を歩めない根本的な欠陥があり、それを認め、自分の罪を言い表し、あらゆる罪からきよめる御子の血潮を頂き、神様はあらゆる不義から私たちをきよめて下さるということが記してありました。

そして2章です。

1 わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。」とありますのは、今日の個所の中で結論となる部分です。罪ある者が、「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる」という恵みに触れて、「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」との恵みを頂いたのです。そして、そこからスタートして、私たちはもはや罪を犯さないようにと、神様の赦しと恵みとの中であって進むことが出来るのです。

1 わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。

わたしの子たちよとのヨハネの書き始めの言葉があります。この書はヨハネによる「愛の手紙」と呼ばれますが、かつて彼は、「雷の子」との名をイエス様から頂くほどに激しい人でした。

ヨハネ 9:49 するとヨハネが答えて言った、「先生、わたしたちはある人があなたの名を使って悪霊を追い出しているのを見ましたが、その人はわたしたちの仲間でないので、やめさせました」。

9:50 イエスは彼に言われた、「やめさせないがよい。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方なのである」。

9:51 さて、イエスが天に上げられる日が近づいたので、エルサレムへ行こうと決意して、その方へ顔をむけられ、

9:52 自分に先立って使者たちをおつかわしになった。そして彼らがサマリヤ人の村へは行って行き、イエスのために準備をしようとしたところ、

9:53 村人は、エルサレムへむかって進んで行かれるというので、イエスを歓迎しようとはしなかった。

9:54 弟子のヤコブとヨハネとはそれを見て言った、「主よ、いかがでしょう。彼らを焼き払ってしまうように、天から火をよび求めましょうか」。

9:55 イエスは振りかえって、彼らをおしかりになった。

マルコ 3:17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。

また、マタイ 20 章においても、ヨセフと兄ヤコブの母は、イエス様に自分の子たちを良き地位に就かせてくださいとイエス様に願い、他の弟子たちがかんかんになったという出来

事が記してあります。

マタイ 20:20 そのとき、ゼベダイの子らの母が、その子らと一緒にイエスのもとにきてひざまずき、何事かを願いました。

20:21 そこでイエスは彼女に言われた、「何をしてほしいのか」。彼女は言った、「わたしのこのふたりのむすこが、あなたの御国で、ひとりあなたの右に、ひとは左にすわれるように、お言葉をください」。

20:24 十人の者はこれを聞いて、このふたりの兄弟たちのことで憤慨した。

ペテロも、「サタンよ、引きさがれ。わたしの邪魔をする者だ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている」とイエス様に言われてしまったことがありますが、私たちは、自分が正しいと思い込みながら、とんでもない過ちをしてしまうものです。

しかし、そんな罪を犯す者のために、父のみもとには、私たちのための助け主、弁護者、仲裁者、調停者がおられます。

この事から、神様は罪人を裁こうとされる方というよりもむしろ、罪人を赦そうとされるお方であることが分かります。神様は、私たちが罪を犯してもなお、助け、弁護し、仲裁し、調停し、その罪を赦そうと義なるイエス・キリストによって働きかけて下さいます。

2 彼は、わたしたちの罪のための、あがないの供え物である。ただ、わたしたちの罪のためばかりではなく、全世界の罪のためである。

そしてその罪の贖いは、信じる私たちの罪のためのみならず、全世界の人々の罪のため、そのように神様の赦しの愛は全世界の人々に等しく開かれています。

3 もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。

4 「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。

そして話の対象は赦されたものである私たちに移されます。

その大いなる赦しを頂いて、信じる者になった私たちは、神様が主イエス様を通して語られた戒めを守るようになっています。

イエス様は、ヨハネ8章の中にありますが、こう語られました。

8:31 イエスは自分を信じたユダヤ人たちに言われた、「もしわたしの言葉のうちにとどまっておるなら、あなたがたは、ほんとうにわたしの弟子なのである。

8:32 また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。

私たちの罪の贖いとして、十字架にかかって身代わりとなって下さるほどまでに私たちのことを愛して下さった方がここにおられ、私たちは死にゆく体のいのちの命拾いのような簡単なことではなくて、永遠の命拾いをしたわけですが、救われたからはいさようなら、あとは自分の考えの中自由に暮らしますという風に果たして成るのでしょうか。

そこまで私たちのことを愛して下さった方との出会いは、私たちにとって何にも勝る出会いであり、その方の愛と慈しみ、誠に満ちた言葉は私たちにとっての宝の言葉、守るべきいのちの言葉とならないでしょうか。その言葉にとどまる事こそが真理を知ることであり、私たちを本当に自由にするとイエス様は語られました。本当にその通りであると思います。

3 もし、わたしたちが彼の戒めを守るならば、それによって彼を知っていることを悟るのである。

4 「彼を知っている」と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。

要するにはそのお方と深く深く心が結ばれているのか、本当の感謝をもってその方のお陰と思って生きているかということが問われているのではないのでしょうか。赦された、はいどうも、さようならという人は、本当にその救いのすごさが分かっていない人なのではないのでしょうか。イエス様を知っているようで、本当は全然知らないし、知ろうともしていないのです。しかしそういう事では、この救いが何であるのかを理解しているかと言えば、甚だ疑わしいと言わざるを得ません。

ルカ 17:11 イエスはエルサレムへ行かれるとき、サマリヤとガリラヤとの間を通られた。

17:12 そして、ある村にはいられると、十人の重い皮膚病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちどまり、

17:13 声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。

17:14 イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。

17:15 そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめたたえながら帰ってきて、

17:16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。

17:17 イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの

九人は、どこにいるのか。

17:18 神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか。

17:19 それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

ヨハネ 14:12 よくよくあなたがたに言うておく。わたしを信じる者は、またわたしのしているわざをするであろう。そればかりか、もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。

14:13 わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。

14:14 何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。

14:15 もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。

14:16 わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。

14:17 それは真理の御霊である。

2:5 しかし、彼の御言を守る者があれば、その人のうちに、神の愛が真に全うされるのである。それによって、わたしたちが彼にあることを知るのである。

2:6 「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

神の御言葉を守るなら、その人のうちに、神の愛が真に全うされます。力ある神様の御言葉に従うのならば、ガリラヤ湖で風と波を鎮めた主の出来事や、ルカ5章やヨハネ21章の大漁の奇跡を私たちも見ることが出来ます。そして私たちの周囲の方々に見せることが出来ます。こうして、「その人のうちに、神の愛が真に全うされる」のです。

このようにして、神様が、主が私たちと共におられることを知るのであります。私たちはますますイエス様に引き付けられ、主も私たちと共に歩んでくださり、私たちもまた、イエス様と出会いながら、主に似るものとなり、イエス様の身丈にまで成長させていただくのです。

2 コリント 3:18 わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つつ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。

主の贖いを頂き、主のお姿を見せて頂き、力ある御言葉を頂き、それに従いたいと願い実行する者に力ある御業を示し、神様を知るものとならせ、私たちのうちに神の愛を真に全うさ

せてくださり、わたしたちが神様にあることを知らせてくださる主の恵みに感謝いたします。

「彼におる」と言う者は、彼が歩かれたように、その人自身も歩くべきである。

私たちの人生の目標は、イエス・キリストです。このお方から学び、このお方と共に使命を負い、このお方が歩まれたように歩む。そう願ひ、日々進ませていただきたいと願うのです。

エペソ 4:11 そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

4:12 それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

マタイ 11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。主の贖いと、それに続く神様の教えと助けのお導きに心より感謝いたします。イエス様が語られた言葉が思い出されます。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」。どうぞ私たちを自由へと今週も導いて下さい。わが思いではなく、神様の御心が成りますように、どうぞ私たちをお導き下さい。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。

主イエス様の御名によって祈ります。アーメン